

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2004-534921 (P2004-534921A)  
 【公表日】平成 16 年 11 月 18 日 (2004.11.18)  
 【年通号数】公開・登録公報 2004-045  
 【出願番号】特願 2003-512537 (P2003-512537)  
 【国際特許分類】

**F 0 1 D 9/02 (2006.01)**

【F I】

F 0 1 D 9/02 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 7 月 6 日 (2005.7.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

任意の翼形部表面位置に対して垂直な方向に  $\pm 0.100$  インチ ( $2.54$  mm) の範囲内にあるエンベロープの翼形部の形状をしたノズルベーン (14) を有するタービンノズル (12) であって、

前記翼形部が、表 1 にインチ単位で記載した X、Y 及び Z のデカルト座標値に実質的に従った被覆されていない基準輪郭を有し、その場合、X、Y 及び Z 値は、前記翼形部の半径方向最内側の空気力学的セクションから始まりかつ次にそのセクションに相対させて該 Z 座標値に対して定められ、

Z 距離における輪郭が、互いに滑らかに結合されて完全な翼形部形状を形成するようになっている、

ことを特徴とするタービンノズル。

【請求項 2】

翼形部の形状をしたノズルベーン (14) を有するタービンノズル (12) であって、

前記翼形部が、表 1 にインチ単位で記載した X、Y 及び Z のデカルト座標値に実質的に従った被覆されていない基準輪郭を有し、その場合、X、Y 及び Z 値は、前記翼形部の半径方向最内側の空気力学的セクションから始まりかつ次にそのセクションに相対させて該 Z 座標値に対して定められ、

Z 距離における輪郭が、互いに滑らかに結合されて完全な翼形部形状を形成し、

前記 X、Y 及び Z 値が、拡大又は縮小されたノズル翼形部を得るために、同一の定数又は数値の関数として拡大縮小されるようになっている、

ことを特徴とするタービンノズル。

【請求項 3】

タービンの第 2 段の一部を形成することを特徴とする、請求項 1 又は請求項 2 に記載のタービンノズル。

【請求項 4】

複数のベーン (14) を有するタービンノズル (12) を含むタービンであって、

前記ベーンの各々が、任意の翼形部表面位置に対して垂直な方向に  $\pm 0.100$  インチ ( $2.54$  mm) の範囲内にあるエンベロープの翼形部の形状をしており、前記翼形部が、表 1 にインチ単位で記載した X、Y 及び Z のデカルト座標値に実質的に従った被覆されて

いない基準輪郭を有し、その場合、 $X$ 、 $Y$ 及び $Z$ 値は、前記翼形部の半径方向最内側の空気力学的セクションから始まりかつ次にそのセクションに相対させて該 $Z$ 座標値に対して定められ、

$Z$ 距離における輪郭が、互いに滑らかに結合されて完全な翼形部形状を形成するようになっている、

ことを特徴とするタービン。

【請求項5】

複数のベーン(14)を有するタービンノズル(12)を含むタービンであって、

前記ベーンの各々が、表1にインチ単位で記載した $X$ 、 $Y$ 及び $Z$ のデカルト座標値に実質的に従った被覆されていない基準輪郭を有する翼形部の形状をしており、その場合、 $X$ 、 $Y$ 及び $Z$ 値は、前記翼形部の半径方向最内側の空気力学的セクションから始まりかつ次にそのセクションに相対させて該 $Z$ 座標値に対して定められ、

$Z$ 距離における輪郭が、互いに滑らかに結合されて完全な翼形部形状を形成し、

前記 $X$ 、 $Y$ 及び $Z$ 値が、拡大又は縮小されたノズル翼形部を得るために、同一の定数又は数値の関数として拡大縮小されるようになっている、

ことを特徴とするタービン。

【請求項6】

前記タービンノズルが、該タービンの第2段を含むことを特徴とする、請求項4又は請求項5に記載のタービン。

【請求項7】

前記タービンノズルが、60個のベーンを有していることを特徴とする、請求項4又は請求項5に記載のタービン。